

S-F J 日本一決定戦レースレポート

(鈴鹿サーキット 国際レーシングコース 12月8日 晴れ)



<レーシングチーム> LTV Racing

<ドライバー> 天野 翼 (20歳)

<参戦クラス> Super-F Jクラス(ゼッケン5番 参加33台)

<マシン> R&D 10V

<スポンサー> T-PLAN様、TOKO様、宇都宮餃子館様

<タイヤ> YOKOHAMA

<オイル> WAKO'S

<リザルト> 予選Aグループ 6位

第1レグ 5位

決勝 8位入賞

<リザルト詳細URL>

鈴鹿サーキット http://www.suzukacircuit.jp/result_s/2012/clubman/index.html

Super-F J オフィシャル <http://www.jss-org.com/>

<詳細レポート>

* 金曜日練習走行

全国7シリーズから約40台マシンが競い合う日本一決定戦。今シーズン最後のレースは鈴鹿サーキットで行われる。天野選手は、前回F1日本グランプリのサポートレースで初めての鈴鹿サーキットながら健闘し、同時にライバルとの差も明らかになった。練習走行は、ライバル達がニュータイヤでセットアップを行う中、天野選手は中古タイヤでの練習走行とした為、タイムは直接比較できない。それでも前回の課題を克服しながらセットアップを進め、なかなか良い仕上がりとなった。

* 土曜日子選

【公式予選Aグループ】

公式予選はAグループとBグループに分かれてアタックする。天野選手はAグループ20台の中でポールポジションを目指す。タイヤが温まりきらない序盤からすでに2分12秒台前半のタイムが出始め、3周目にはコースレコードとなる11秒台のライバルが現れる。天野選手は思うようにタイムが伸びず、6周目時点で12秒7の7番手タイムに留まる。7周目に12秒4の自己ベストタイムで6番手に浮上するが、上位5台は11秒台と大きく離されてしまう。ポールポジションは11秒1のコースレコードとなり、天野選手は6番グリッドとなった。

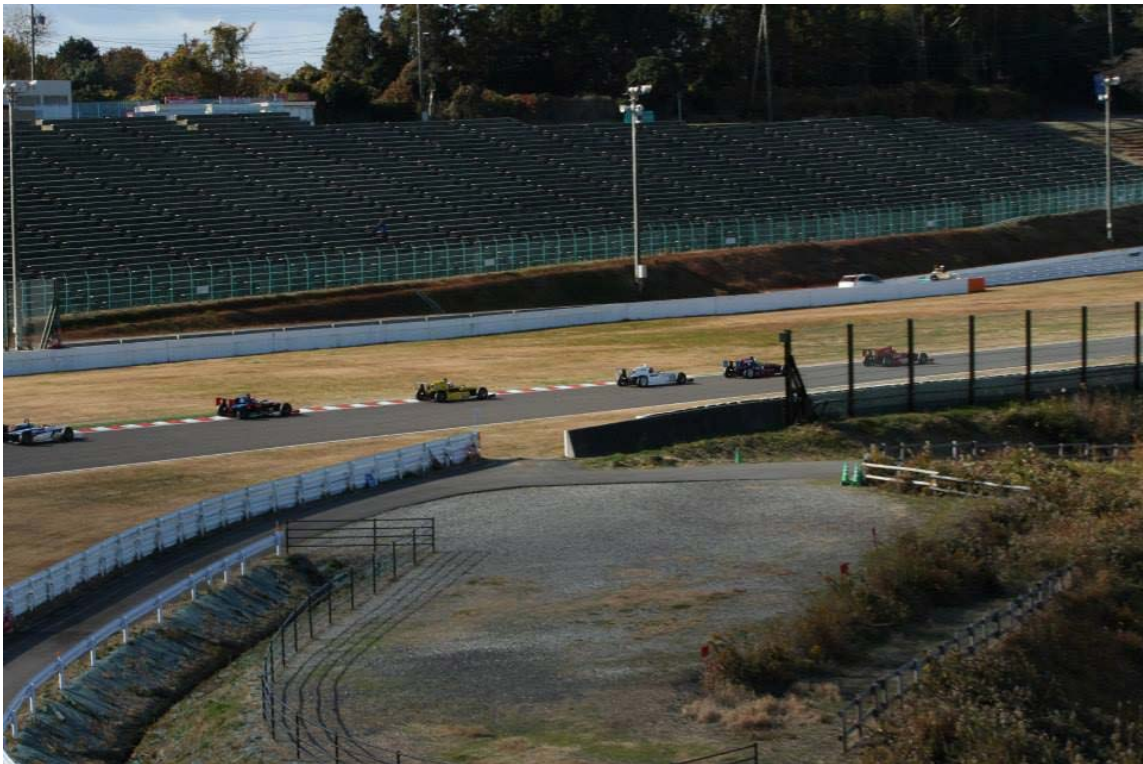
【第1レグAグループ】

第1レグAグループ6週のレースを6番グリッドからスタートする。5番グリッドの選手がスタート直前のトラブルによりピットスタートとなり、1周減算の超スプリントレースとなった。無難なスタートを決めて5番手で周回を重ねる。上位選手のラップタイムが早く、じわりじわりと差が広がっていく。後方から追い上げてくる選手もいなく、単独5位でチェッカーを受けた。明日の決勝レースは、AグループBグループのチェッカー順で交互にグリッドに付く為、9番手スタートとなった。

* 日曜日決勝

【決勝レース】

9番グリッドからの決勝レースは、全10周で日本一を競い合う。絶妙なスタートを決めた天野選手はなんと、1コーナーを5位でクリアしていく。2コーナーを立ち上がると上位4台のすぐ後ろで表彰台を狙えるポジション。しかし、バックストレートと130Rで2台に抜かれ、1周目を7位で戻ってきた。2周目もバックストレートで1台に抜かれ8位となる。トップは2台が徐々に差を広げ、3位争いは6台が数珠繋ぎとなり、その集団最後方で天野選手は追い上げる。レース中盤はタイヤのグリップの低下から、小さなミスなど苦しい展開になる。それでも諦めず前の集団に食らい付いていくが、パッシングまでには至らず歯がゆい展開となった。今年の集大成となる10週のレースは8位フィニッシュとなった。



日本一決定戦は、フリープラクティスでのトップとの差が 2 秒以上（タイヤの違いがありますが）、予選でのトップとの差が 1.3 秒、第 1 レグのトップとのベストタイム差が 0.6 秒、決勝のトップとのベストタイム差が 0.6 秒と確実に差を詰め順位を上げていきました。シリーズ戦では、予選が良くてもスタートをミスしたり決勝レースのペースが上がらなかったり安定性にかけていましたが、最終戦は見事な安定感で、ラップタイムチャートを見ると 3 周目以降は毎周ベストラップと変わらないタイムで走っていました。このことから成長したのは間違いないですが、トップグループの選手達に速さで追いついていないのも事実明らかです。レースはチームスポーツです。ドライバーの能力、マシンの性能、スタッフの技術、スポンサー様の応援が結束されたときに最高の結果が残るという事が学べたことでしょう。天野選手にはどういう形であれ、来年以降に、今年得た経験を活かして行って欲しいと思います。



【ドライバーコメント】

数多く走っていない鈴鹿で、金曜日のセッションから日曜のレースに向けて上位との差を縮めていくことが出来、最終的にレースが出来るところまでマシンや走りを持っていくことが出来たのは、自分としてはとても良かったと思います。ただ今回は、表彰台という目標がありましたので、この目標を達成出来なかったことは悔しいの一言に限ります。それでも、今年1年の集大成として自分らしいレースが出来たと思います。

今年1年、スポンサーとして頂きました高橋様、寺島様、小堀様、良成様、稲垣様、応援して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

人として、ドライバーとして大きく成長することが出来ました。